

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月27日(水) 15:45～15:58 於) 白河市)

1. 発言要旨

どうもこんにちは。

今日は福島県の会津若松市、矢吹町、白河市を訪問いたしました。会津若松市では、大熊町から避難をしている子供たちが通う大熊町立小学校、中学校を訪問させていただきました。校長先生とお話をして、そして授業参観をさせていただきました。

震災のときに生まれた子供が小学校1年生なんですね。ですから、本当に6年半前、あの震災のことを思うと、子供たちの成長は早いんだな、そんな印象を持ちました。

また、中学校では、最初6,000人の大熊町民の方々が会津若松に避難してきて、小学校、中学校に、本当に多くの子供たちがいたんですけど、今は特に中学生は10人小学校を卒業して、たった1人、中学校に進んだ。それぞれ会津若松に家を建てたり、いわきに行ったりという形で、今、中学校を維持するための工夫、一番は魅力ある中学校をつくりたいということですけど、そこに取り組んでいる校長先生の姿が印象的でございました。

また、会津大学を訪問したんですけど、先端的なICTを使った研究開発、そして人材育成の取組を見てまいりました。このような取組が地元の企業の育成にも寄与することを期待します。

さらに、会津地方、17市町村あるんですけど、そのアンテナショップを見てまいりました。そして、トルコキキョウとイチゴを栽培している次世代の栽培技術を使った農家を訪問してまいりました。そのイチゴのデータをクラウドを使ってコンピュータにかけて、そこで判断をして液体肥料とお水をきちんとやるという形で、今までは農家の勘、経験に頼っていたものが、全てコンピュータで管理されている。そして、すばらしい成績を上げている。これも省力化につながるわけでありますので、風評払拭と、いわゆる生産性向上、こういう取組をしているところを訪問してまいりました。

また、矢吹町は「未来くるやぶき」という愛称で、子供の屋内運動施設とフットサルコートを視察してまいりました。また、鶴子山公園、ここにすばらしい遊具が設置されております。それぞれの被災地の子供たちの運動の機会確保に取り組んでいる姿を見させていただきました。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 全ての日程を終え、福島復興というのは大臣の目から見てどのくらい進んでいるのか。まだ課題というのが新たに見つかったのであれば、そこら辺を教えていただきたいんですが。

(答) 被災地をめぐってまいりますと、いわゆるハードの復興が進んでいるところがございます。あと遅れているところもございます。進んでいるからといって、課題が全部消えたというわけではありませんので、進んでいるステージであれば、その進んだ時点で新たな課題が生まれてまいります。そういう課題を一つ一つ解決していくのが、やっぱり私に与えられた復興の仕事かなというふうに思います。普通、皆さん、復興が進んでいるところはもう課題はないと思うんですけど、そうではないということ、これはやっぱり現場を見ていくと強く感じます。特に仮設から復興住宅に移られて全部仮設はこの町は終わりだということもあるんですけど、でも、復興住宅に移り住んで心の折れた、いわゆる心の復興、ここもこれからやっていかねばならないという新たな課題というのが生まれてまいります。そういう意味で、復興の仕事はこれからも続く、このような認識をしております。

(問) 大学も視察されたと思うんですけども、若い人たち、中学生も小学生もそうですけども、未来に向けて頑張っている福島県民の子供たちがいっぱいいると思うんですけども、今日目の当たりにして、子供たちの元気や勇気など感じられたことが、何かありましたか。

(答) 子供たちは本当に元気でございますして、ちょうど小学校2年生の授業が休憩時間に入ったので、その子供たちとお話をして、記念撮影もして元気を頂いてきました。

(問) 今の質問と関連するんですけども、朝の大熊から今の白河のところまで視察されて、何かまだここは課題じゃないかなと大臣が思ったところは。

(答) 先ほども申しましたように、昔、6年半前はたくさんの小学生、中学生がいたんですけど、大熊の中学校で小学校を10人卒業した中で大熊町中学校に来たのはたった1人です。残り9名の方々はそれぞれのお父さん、お母さんと暮らしているわけですけど、そこが課題ですね。だから校長先生からも相談を受けましたが、どうしてすれば大熊中学校にもっと生徒が来てもらえるか、ここはやっぱり魅力のある、これが日本一だというそういう教育、そして授業の内容を見ていると、私が子供の頃受けた授業とまるっきり違いますね。コンピュータ、タブレットを使いながら、映像を見ながら、自分で考えるという授業なんですね。全て自分で考える。自分で考えてそれを発表していくという、例えば私の場合、子供の頃は国語の授業は、「この本を読んで感想文を書きなさい」

い」というのが、大体の受けた国語の授業だったんですけど、今は違うんですね。ですから本当に今の子供たちは、自分を発信する能力、そして自分で物事を考える能力、これが格段についてくる教育方法だなど、やっぱり現場見て授業参観してみないと分からないですね。よく分かりました。

(問) 大臣、解散中も現職大臣として選挙期間中を迎えられるわけですが、公務と政務のこの間の関係性ということについて、どういうふうにお考えになっておられるかお願いします。

(答) 復興大臣ですから公務最優先です。例えば10月21日、選挙の最終日です。でも、常磐線の竜田・富岡間の開通式がございます。ここも公務として選挙期間中でありまして、きちんと私は出席するつもりです。

また、明日28日に解散される予定ですが、30日には双葉郡の「ふたばワールドinとみおか」、今年4月1日に解除された富岡町で双葉郡全体のふたばワールドというのが開かれます。

これも公務として、自分の選挙は置いておいて、公務最優先でやっていきたい、このように考えています。

(問) ちょっと不勉強で恐縮なんですが、竜田の常磐線の開通は、選挙区外になるんですか。

(答) いや、選挙区です。

(問) 選挙区で公務をされておられて、公務ですよというふうにおっしゃるのはよく分かるんですけども、ちょっと分かりにくいので、復興大臣としての公務を最優先させるということの例として、何か例えば福島外とか。

(答) ですから、今日だって選挙区外のここに来ているわけです。

(問) 選挙期間中ということが大変分かりやすいんですけども、そういう御予定ってありませんか。

(答) それは、これから解散になれば、党本部で復興大臣は岩手のここに行け、宮城のここに行けという応援体制が組まれると思います。

(問) それは正に政務ですよ。

(答) それは政務です。

(問) 復興庁の公務として、何か例えば宮城に行かれる公務の御予定があるとか、外国に行かれて公務の御予定とかは今のところはないですか。

(答) はい。

(問) 今のお話ですと、最優先されるということなんで、そういうのがもしあれば、当然そっちを優先させるという。

(答) 当然です。公務は突然入ってきますからね。

(問) 選挙への影響はそういうふうにお考えになっておられますか。

ちょっと公務が忙しいと、選挙に力を入れられなくて、苦しいなとか。

(答) これは初めて大臣としての選挙を迎えるわけでありますので、今までの選挙のやり方とはかなり違うと思います。例えば、小野寺防衛大臣は、東京在住ですから、選挙運動として自分の選挙を、もう一切。

(問) 小野寺大臣と同じように対応するぞということですか。今、小野寺大臣の話をされたということは。

(答) ですから、公務以外のときには、全部選挙運動、政務という形で選挙をやらせていただいて。

(問) 大臣御自身としては、やってみないと分からない。

(答) そうですね。一番は、選挙の応援、これは政務という形でしょけど、それで自分の選挙運動の時間がとられるのかなと。

(問) 応援の予定ってもう入っているんですか。

(答) 分かりません。まだ入っていません。

(問) もう一つ、先日の閣議後会見でもありましたけれども、「確認します」というお話でしたが、長沢副大臣の件は、もう確認されたと思うんですけども、大臣としてどのように受け止めておられておられるか教えてください。

(答) 本当に私と一緒に、特にソフト面、心の復興、私は被災者としての思いを語るだけなんですけど、長沢副大臣は、それを具体的にきちんとした事業化まで持って行ってくれる。そういう意味で、本当に私の右腕となって働いてくれました。本当に残念な、そしてまた、重い決断をされたと思います。これからもいろんなアドバイスを受けたいという形でお会いしたときにお話をしました。

(以 上)